つなおと

復興庁
Reconstruction Agency

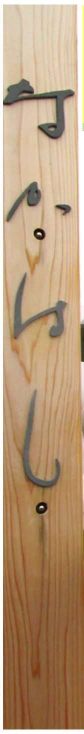
令和2年11月12日発行
宮城復興局気仙沼支所
気仙沼市笹が陣3－5
気仙沼市シルバー人材センター内

第81号

平沢大臣 佐藤町長 村井知事

祝辞を述べる平沢大臣

10/12（月） 南三陸町復興祈念公園 全体開園・中橋開通



10月12日、昨年一部開園した南三陸町復興祈念公園が全体開園しました。開園式典には、平沢新復興大臣が出席し、村井知事や佐藤町長らとともに完成を祝福し、同日開通した中橋を渡り復興祈念公園へ向かいました。平沢大臣は旧防災対策庁舎前にて花を手向け、津波で犠牲になられた住民や町職員43名の方々の御冥福を祈りました。

復興祈念公園に向け中橋を佐藤町長（右）と渡る平沢大臣（左）

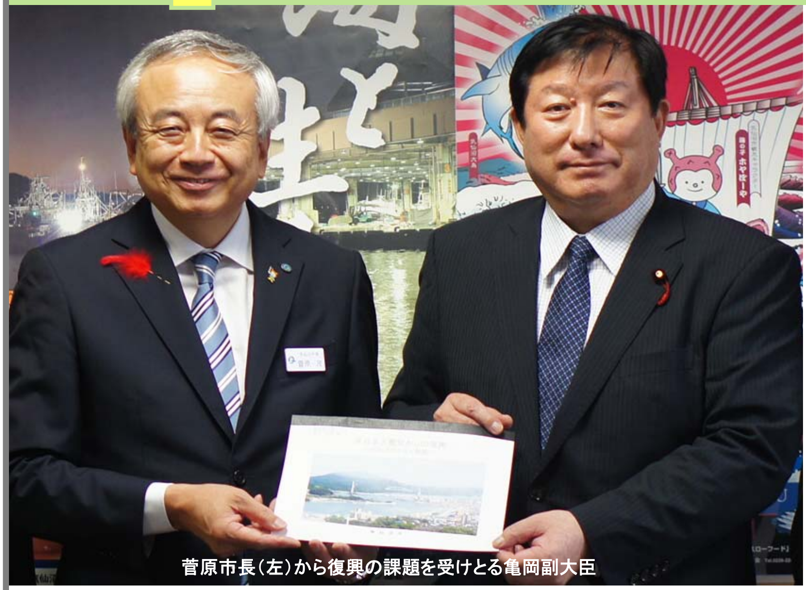
献花後黙祷する参列者
（左から村井知事，平沢大臣，佐藤町長）

10/12月 平沢復興大臣が気仙沼市を訪問
～ 被災地に寄り添い続ける ～

10月12日、平沢新復興大臣が気仙沼市を訪問しました。復興祈念公園を整備中の陣山にて献花を行うとともに、菅原市長から復興状況を確認しました。また、当日開催されていた気仙沼市震災復興推進会議を訪れ、引き続き被災地へ寄り添っていくことが語られました。

菅原市長(中央)に復興状況を確認する平沢大臣(右から二人目)

10/1木 亀岡復興副大臣が気仙沼市・南三陸町を訪問 10/22木
～ これからも復興と向き合う ～


菅原市長(左)から復興の課題を受けとる亀岡副大臣

引き続き復興に向き合っていく想いを伝える亀岡副大臣

亀岡新復興副大臣が10月1日に気仙沼市へ、10月22日に南三陸町を訪問しました。亀岡副大臣は菅原気仙沼市長及び佐藤南三陸町長と意見交換を行い、復興状況や課題について話し合うとともに、復興の方向性について共有いたしました。

佐藤町長(右)とこれからのまちづくりについて話し合う亀岡副大臣

進む震災復興【気仙沼市復興祈念公園】
～ みんなの「想い」を込めて ～

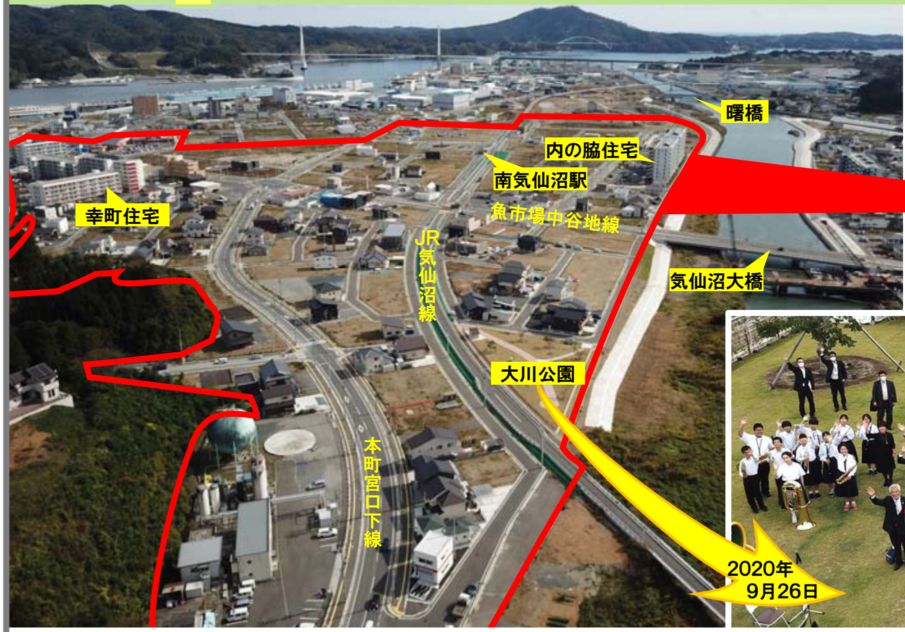
　気仙沼市では、東日本大震災による犠牲者に対する追悼と鎮魂の場であるとともに、防災への想いを新たにする場、地域の再生を実感しつつ未来永劫の安寧を祈る場として、復興祈念公園の整備が進められています。整備場所は、被災地域に囲まれ、一方で将来的にも津波浸水の恐れがなく、海を望むことができ、地域再興が実感できる「陣山」です。大津波や津波火災等で被害を受けた鹿折地区、内湾地区を眼下に望み、湾奥から湾口まで、更には水平線をも一望することができ、また、気仙沼市のシンボルの１つである安波山の麓に位置し、昔から市民に親しまれ、市街地から近い場所でもあります。整備にあたっては、四方を見渡せる地勢を活かし、海及び復興するまちなみへの眺望を確保するとともに、陣山頂上部にはモニュメント（祈りの帆（セイル））や、犠牲者銘板を配置する「追悼と伝承の広場」、憩いの場となる「再生の広場」が整備されます。公園のシンボルとなるモニュメントは、海に向かって祈りをささげる場所となり、高さは約10mで「灯台」「ゲート」「アーチ」「船」「合わせた掌」など公園のアイデアコンペで受賞した作品を融合させた船の帆をイメージしたデザインとなっています。また、犠牲となった1,355名の方のうち、御遺族から刻銘の同意をいただいた1,081名の御名前を刻んだ犠牲者銘板が設置され、犠牲になられた方々のそれぞれの御住まいだった地域に向け追悼ができます。公園面積は約2.3ha、整備内容はモニュメント、犠牲者銘板、寄附者銘板、伝承のオブジェ、市民参加花壇、駐車場、トイレ、四阿（あずまや）等となり、総事業費約6.3億円（復興交付金4.5億円、市支出金1.8億円）です。令和2年10月末現在、モニュメント、犠牲者銘板周辺の工事が終わり、残っている舗装、植栽などにも順次取り掛かる予定です。また、モニュメントは、クラウドファンディングで寄附を呼びかけたところ、985件、約3千万円の支援が集まりました。令和３年２月の開園に向け鋭意工事が進められており、開園が望まれています。

設置された「祈りの帆」

整備が進められる犠牲者銘板

　事業を担当する気仙沼市総務課では、「気仙沼市における追悼祈念施設である本公園は、他の被災沿岸市町よりも開園時期が大分遅く、震災10年目の前に完成する施設となります。これまで祈りの空間の創出に向けて、復興庁との協議、アイデアコンペの実施、クラウドファンディングによる寄附集め等相当な時間をかけて整備を進めてきました。それだけ震災に対する想いを蓄積させた公園ですので、開園に向けスケジュールに影響がないよう着実に工事を推進してまいります。また、震災当時の様子を承知している方であれば、公園からの景色は、この10年のまちの再生を大いに実感いただけるものと考えています。今見える風景は市民のみでは決して実現し得たものではなく、世界中からの支えによって成し得たものです。その意味で気仙沼市民にとっての祈りの場所であることはもちろんですが、全国各地から本市を温かく見守っていただいた方々にとっても祈りをささげられる場所であり、コロナ禍で自由に移動しにくい時勢ではあるものの、本市に縁ある方々には、是非来園いただきたいと考えています。」とのお話を頂きました。

9/26 土 南気仙沼地区土地区画整理事業完了
～安心して暮らせる新たなまちづくり～



９月２６日、南気仙沼地区大川公園にて「南気仙沼地区被災市街地復興土地区画整理事業竣工式」が開催されました。震災で壊滅的な被害を受けた同地区では、住宅や産業の基盤を再生し、地盤の嵩上げや道路網の再整備が実施され、土地区画整理事業区域内は、海抜3.7～5.5メートルの嵩上げゾーンと、海抜2.2～3.5メートルの商業・産業ゾーンに分けて造成されています。大川公園内には、大川土手で大津波に耐えて生き残った桜の木7本が「希望の桜」として移植されています。式典では、竣工記念プレートの除幕や気仙沼中学校吹奏楽部による演奏で工事完了を祝いました。

10/6 火 気仙沼市健康ボランティア養成講座
～ボランティア体制づくりに向けて～

気仙沼市では、今年度の被災者支援総合交付金を活用した事業として「健康ボランティア養成講座」を実施しました。この事業は、復興・創生期間の終了後も被災者の健康支援を継続できるよう被災された方の相談業務に従事された経験がある方などを対象に健康ボランティアを育成し、自主的な活動の体制づくりへ移行することを目標にしています。「被災者の健康支援から地域の健康支援へ」、「被災地のボランティア活動」のふたつの講座を各２回ずつ実施し、延べ81名の市民が参加されました。

◆支所長コラム

朝晩の冷え込みが一層厳しくなり、安波山をはじめ気仙沼、南三陸の山々も赤く色づき、もうすっかり秋の気配、冬の到来を感じる時期となってきました。秋・・・気仙沼といったら「サンマ」、今年は10月中旬にようやく気仙沼の魚市場にサンマ船が入港し、私も小ぶりではありましたが脂ののった初物をいただいたところです。昔はサンマを満載したトラックがカーブでよく落とし、それを猫と競争して取り合ったとのこと。一日も早く安定した水揚げが続くよう願うばかりです。さて、９月１６日に菅内閣が発足し、平沢勝栄新復興大臣が就任されました。平沢大臣は10月12日に就任後初めて気仙沼市、南三陸町などの被災地の状況を視察、南三陸町の震災復興祈念公園の全体開園式にも出席され、「地域の復興に対する頑張りに応えるよう、必要な支援を打ち出していく」旨ご発言しました。被災地の復興の総仕上げに向け、現場主義の徹底や、被災者に寄り添った地域目線に心がけ、引き続き課題解決に取り組んでいきたいと思います。（高信）

これまでに発行した「つちおと」は、復興庁ホームページで御覧いただくことができます。

復興庁HP（http://www.reconstruction.go.jp/） ⇒ 宮城復興局 ⇒ 気仙沼支所だより「つちおと」

【編集後記】初代支所長が筆をとったときく「つちおと」の表題。見る度に素朴ながら不思議な力強さを感じます。「必ず復興が訪れる」と、伝えたかったのではと勝手ながらに考えます。

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）
復興庁 宮城復興局 気仙沼支所
電話：0226-23-5301，FAX：0226-23-5310